

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

* 2021 *

Autumn

素晴らしきアラスカ

第二特集

ピースボートクルーズだから体験できる

交流プログラムへ

[発行](株)ジャパングレイス

特集

大自然のドラマに感動する

素晴らしきアラスカ P3

インサイド・パッセージをゆく
アラスカクルーズの魅力 P4

アラスカ最南端の街
ネイティブ文化とグルメ [ケチカン] P6

“しっとり”とした雰囲気
アラスカ最南端の氷河 P7

世界最大級の氷河に
息を呑み圧倒される P8

旅行者を魅了する
美しい山々と港町 [スワード] P10

第二特集

ピースボートクルーズだから体験できる

交流プログラムへ P12

「被爆を生き抜いた2つの楽器」
ヒロシマから奏でた平和の調べ P16

PEACE BOAT NEWS P18

素晴らしきアラスカ

大自然のドラマに感動する



世界三大クルーズエリアに数えられるアラスカ。その最たる魅力はクルーズだからこそ出会うことができる、大自然の数々。迫力あふれる氷河、静寂のなかのフィヨルドの景観、そして生命力に満ちた野生動物など、大自然が語るドラマを堪能できる。その見どころや旅の楽しみ方を、現地で長年ツアー会社の代表を務め、ピースボートの水先案内人でもある、アラスカ旅行のスペシャリスト安藤正康さんのナビゲートでお届けする。



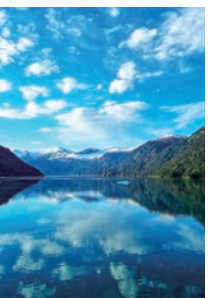
安藤正康 「アラスカの達人」と呼ばれるアラスカアドベンチャーのスペシャリスト。HAILしろくまツアーズ代表。常に新しい発想を持って、さまざまな角度から「最後のフロンティア」を紹介している。

ALASKA

Ketchikan • Tracy Arm Fjord • Hubbard Glacier • College Fjord
Harvard Glacier • Seward

表紙の写真

氷河の一部が崩れ落ちる瞬間を目撃できる可能性が比較的高いことで人気のトレーシーアームフィヨルド。





Alaska

インサイド・パッセージは島や海岸が現れては消え、美しい山々の表情も次々と変わる。クジラやアザラシなどの野生動物に出会うチャンスもある。



氷河でオンザロック

乗組員が海面からすくい上げた氷片を味わう、ユニークな楽しみもクルーズならではの。



Alaska Cruise
PEACE BOAT

海洋動物との出会い

悠久の時間が流れるアラスカのフィヨルド地帯は野生動物の楽園でもある。豊かな自然環境が育んだ海と大地で、さまざまな生き物との出会いがある。



Animals

大自然の迫力に感動

アラスカ州の長い海岸線に沿って、そびえ立つ山々、輝く氷河、深いフィヨルドなどの素晴らしい自然を大パノラマで堪能できるのがクルーズの醍醐味。



Nature

先住民族の文化に触れる

豊かな自然が育んだ先住民族の文化もアラスカの大きな魅力のひとつ。自然とともに歩んできた人々の暮らし、特徴ある文化に触れることができる。



Culture

世界中から観光客が集まるアラスカクルーズ。壮大な氷河を目の前にし、その氷河がつくり上げたフィヨルドや雄大な景色を堪能できる。また、クジラやイルカが悠然と泳ぐ姿にも出会えるチャンスがあるだろう。寄港地では先住民族の文化に触れ、シーフードグルメも楽しみたい。

インサイド・パッセージをゆく アラスカクルーズの魅力

Alaska Cruise Checkpoint

“しっとり”とした雰囲気のアラスカ最南端の氷河

〔トレーシーアームフィヨルド〕 Tracy Arm Fjord

アラスカの州都ジュノーの約70キロ南に位置するフィヨルド。48キロにわたって渓谷が続き、遥か昔から続く風景は圧巻の美しさ。青く反射して流れゆく氷山も幻想的だ。
● Voyage117クルーズで遊覧



トレーシーアームフィヨルドでは時々狭い水路を通して氷河と相対する時があり、それがまた迫力満点だ。



フィヨルドを囲む山から滝のように川の水が注がれる景色も圧巻。



光の屈折で青い光を反射して流れる大きな氷山があることも。

「トレーシーアームフィヨルド」はアラスカ最南端のフィヨルドである。「両サイドから森林が迫る水路を進むと、最も深いところに『ツイン・ソイヤ氷河』が現れます。つまり双子の氷河ですが、ここまで進むことができればラッキーです」と安藤さん。「氷河は「見どれも同じように見えるかも知れませんが、そうではありません。アラスカの氷河は全体としては後退しているが前進している

氷河もあります。だからいつも表情が違います。また周りの雰囲気や木々との調和といったものでも異なります。個人的にはトレーシーアームは東南アラスカらしい濡れた感じの、いわゆるしっとりとした雰囲気がとてもよいと思います」。

ひとつ付け加えると、天候や氷河の塊の量によって奥まで進むことができない場合もあるので、本船が通るときは幸運を祈りたい。



雄大な山を背景にケチカン川が流れ、散策すると大自然が身近に感じられる。

アラスカのグルメ

Alaskan Gourmet

定番の「サーモン・バーガー」はボリューム満点。



アラスカ・シーフードの王様「サーモン」のグリル。



身のぎっしりつまったタラバガニも堪能したい。

アラスカのお土産

Alaskan Souvenir



愛嬌のあるトーテムボールの置物。

先住民族の文化を伝えるドリームキャッチャー。

彫像のモチーフ、大きさ、デザインなどさまざまなトーテムボールを目にすることができる。



川沿いに美しく整備された「クリーク・ストリート」では素晴らしい景観が楽しめる。

アラスカ最南端の街 ネイティブ文化とグルメ

〔ケチカン〕 Ketchikan

ピースボートクルーズ初寄港となるケチカン。先住民族のクリンキット族の言葉で「鷲の広げた翼」という意味とも。先住民族の文化遺産も多く残り、周辺の海はスポーツフィッシングのメッカでもある。

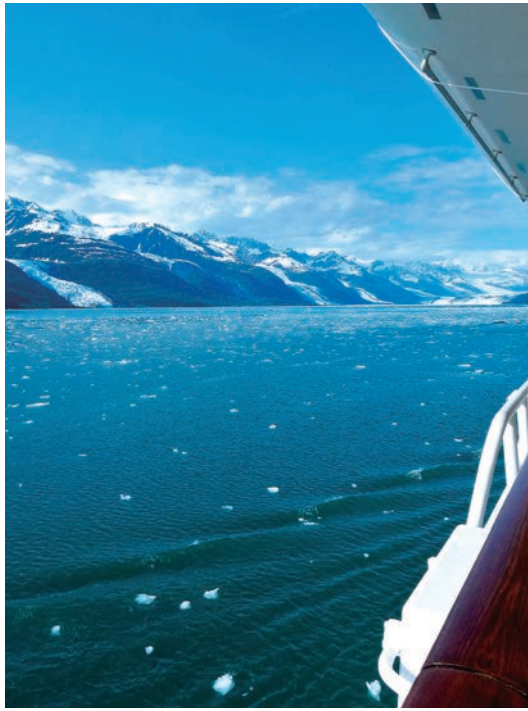
「この街で有名なのはトーテムポールです。アラスカ州など北米の北西沿岸部が発祥で、特にケチカン周辺に暮らしていた先住民族の間でトーテムポールを作る風習が盛んで、その文化が発達してきました」と安藤さん。トーテムポールは自家系などを彫って記すもので、宗

教的な意味合いはなく、家の中や外に表札のように立てられたのだという。街のあちらこちらで、個性的な彫刻が不思議な魅力を放っている。

観光名所としては「クリーク・ストリート」もおすすすめ。「ケチカン川の河口にあり、この町の歴史が記された案内板やクジラの尻尾のベンチが置かれ、川沿いには高床式のカラフルな商店が並んでいます。ダウンタウン全体を見渡すこともでき、せせらぎの音を聴きながらお土産屋さんをまわるのも楽しいですよ」。土産物としては、先住民族のクラフトや鉱石を細工した指輪やネックレス、銀細工などがあり、アラスカは鉱石がたくさん採掘できるので手頃な価格のものが揃っているのもうれしい。

ケチカンは漁業が盛んで「世界のサーモンの首都」として知られている。海の恵みが楽しめる、こぢんまりとしたレストランが多くある。「サーモンはもちろん、タラバガニ、エビをはじめ魚介の種類も豊富です。新鮮なシーフードをぜひ味わってください」。





[カレッジ・フィヨルド]

College Fjord

この名称は、1899年に鉄道王エドワード・ハリマンが支援したフィヨルド遠征に、多くの大学が資金を提供したことに由来する。最深部のハーバード氷河に向かって右側に男子校、左側に女子校の名前がつけられている。氷河の美しさのほか、氷山で日光浴をするアザラシやラッコの姿を見ることができる。



[ハーバード氷河]

Harvard Glacier

カレッジ・フィヨルドの最深部にある氷河。長さ61キロ、幅2キロ、高さ122メートルある巨大な氷の壁。氷河に木の年輪のような黒い筋を見ることができるが、これはハーバード氷河の上流で何本もの氷河が合流していることの証で「モレーン」という。



[ハバード氷河]

Hubbard Glacier

アラスカ州東部とカナダのユーコン州の一部に位置する氷河。アメリカの投資家、実業家としてナショナルジオグラフィック協会の創設者ガーディナー・ハバードにちなんで名付けられている。太古の昔、降り積もった雪が氷河となった時間の長さや自然の営みの大きさを実感できる。

世界最大級の氷河に息を呑み圧倒される

アラスカの氷河は世界で最も美しいといわれている。高さ100メートルを超えるような氷の壁が目前に迫り、そのスケールに圧倒されてしまう。大氷河が轟音とともに崩れ落ちる瞬間を目撃できるのはクルーズならではの特権だ。

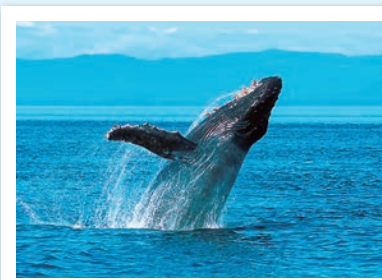
クルーズのハイライトのひとつが「ハバード氷河」だ。長さ122キロ、高さ90メートル、幅は9・6キロに及ぶ。「ハバード氷河はクルーズ船でないと見ることでしかない世界最大級の氷河です。大きな特徴としては氷河の流れるスピードが速いこと。数千年かけて流れる南極の氷河と違い、約400年の時間で流れます。つまり非常に活発であるため、氷河の崩落も多くなります」。しかし、予兆は感じにくいので、大きな氷河が崩れる瞬間を目の前で見ることできたらとても幸運だ。

プリンスウィリアム湾の「カレッジ・フィヨルド」では米国の大学名が付けられたいくつもの氷河を見ることができ、最深部にはハーバード氷河がある。「氷河の崩落はこちらのほうが見られる確率が高い」と安藤さん。「川で言うところの大河から狭いところに入ると急流になりますが、それと同じような地形のため氷河が集まりどんどん押し出されているからです」。

氷河を前にしたとき「もうひとつの楽しみ」として安藤さんが教えてくれたことがある。「耳を澄ませると氷河の後ろの方で氷塊が氷河の氷のなかに落ちていく音が『ゴロゴロ』と聞こえます。雷の音に似ているため、私たちは『アラスカンサンダー』と呼んでいます。ぜひデッキでこの雷を聞いてください」。

アラスカに生きる海洋生物

クルーズの途中、船上から海を眺めていると多くの海洋生物との出会いが期待できる。大自然のなかで生きる、悠然とした姿、迫りに満ちた姿、あるいは愛嬌のある姿、どれもが一生思い出に残るひとときになるだろう。



クジラ

Whale

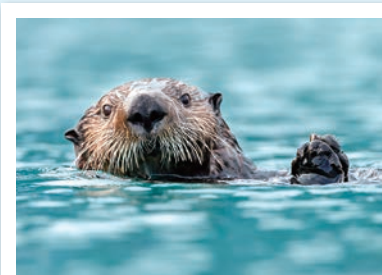
それぞれ独特の模様を持つザトウクジラ。しぶきを上げながら堂々と海原をゆく姿は生命力に満ちている。運が良ければ「ブリーチ」という体をよじらせながら水上へ飛び出すジャンプを目撃できる。



シャチ

Orca

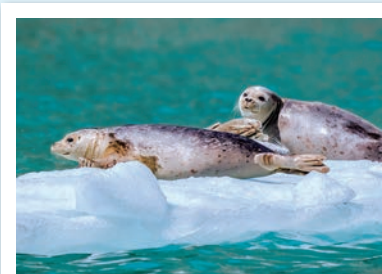
シャチは知能が高く、長命である。家族の絆が強く、行動をともにするので群れで発見するケースが多い。ヒレの形に特徴があり、少し曲がっているのがメスでピンと立っているのがオスである。



ラッコ

Sea Otter

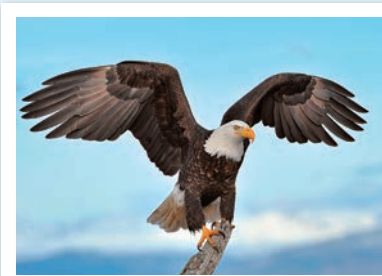
アラスカの海岸地帯で見ることができる。仰向けになって水に浮いていたり貝を岩に打ち付けて食べている姿が目撃されている。厚い下毛をもっているため水中でも体温を保つことができる。



アザラシ

Seal

海面下450メートルまで潜り30分間も息が続くことで、サーモン、タラ、タコやイカなどのご馳走を食べて暮らしている。夏季には流水のうえでのんびり休んでいる姿を見ることが珍しくない。



ハクトウワシ

Bald Eagle

アメリカの国鳥であるハクトウワシはアラスカでたくさん見ることができる。白い頭が特徴で、よく目立つ。フィヨルド沿岸の上空を旋回し、ダイブして魚を獲り岸辺で食べる姿は迫力満点だ。



アラスカのグルメ Alaskan Gourmet



スモークサーモンも定番のひとつ。お土産としても人気。

驚くほど肉厚なオヒョウのステーキ。



オヒョウはクセがなくフライにしても美味しい。

100年の歴史を誇る世界最北の地ビール。



アラスカのお土産 Alaskan Souvenir

アラスカの名産であるベリーのジャムもおすすめ。



白樺の蜜からつくる「バーチシロップ」。



1: 小さな港町は夏場に多くの観光客で賑わう。2: スワードの名産であるオヒョウが水揚げされている。3: 大物を狙って釣り人がやってくる。

旅行者を魅了する美しい山々と港町

[スワード] Seward

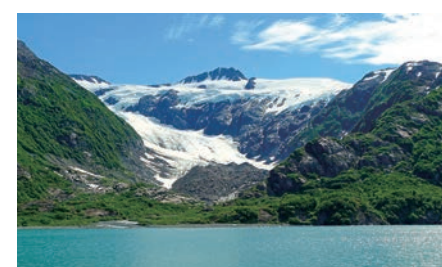
アラスカで二つめの寄港地となるスワード。アンカレッジからも気軽に訪れることができるため釣りははじめホエール・ウォッチング、カヤックなどさまざまなアトラクションの拠点にもなっている。

スワードは、キーナイ半島東岸のリザレクション湾に面しており、1903年、アラスカ鉄道の開通とともに誕生した。「人口3千人の小さな閑静な港町ですが、観光シーズンの6月から9月にかけては多くの観光客が訪れます。特にアンカレッジから鮭やオヒョウという巨大魚を目的に釣り人が多くやってきて、朝早くから釣り船が出ていきます」。リザレクション湾に沿って遊歩道があり、美しい景色を眺めながら散歩が楽しめる。またアラスカの海洋生態系を紹介している「アラスカ水族館」ではアシカやアザラシなども観察

できる。このほかオブシヨナルツアーとして、キーナイ・フィヨルド国立公園クルーズも人気のあるコースだ。漁港ゆえシーフードグルメは外せない。「地元でとれる海産物はおいしい。スワードでは特にオヒョウが有名です。オヒョウは大型カレイの仲間、肉食のため大きく丸々太っています。肉厚で脂がのついていて、こちらでは高級魚として扱われています。ぜひレストランで召し上がってください」。シーフード以外では、トナカイの肉や地ビールを楽しむのもいい。また名産のベリー(野いちご)のジャムはお土産にもおすすめです。

オプションアルツアーで行く [キーナイ・フィヨルド国立公園] Kenai Fjords National Park

スワード山の麓に広がるおよそ24万ヘクタールの氷河で覆われた楽園。水深が深く穏やかな湾で、海に流れ込んだ氷河が複雑な海岸線を描き、大自然の驚異を感じられる。動物ウォッチングのクルーズも楽しめる。



クルーズでは、公園内の潮間水河や、シャチやクジラなどの海洋生物を見ることができる。

交流プログラムの魅力



クナ族による文化体験(クリストバル)



ご家庭でランチを一緒に(厦門)

言葉の壁を超えて、現地の交流相手と身ぶり手ぶりで直接コミュニケーションをとる。一緒に街を歩いたり、互いの文化を紹介しあったり、普通の観光では味わえない体験ができる。たとえばブラジルのリオデジャネイロで日系3世、4世の方々との語合い、ブラジルにきた背景、当時の暮らしなどを聞いたり、カラオケを楽しんだりする。あるいはモロッコで日本が大好きな若者たちの案内で街歩きをし、レストランでモロッコ料理を楽しむといったコースもある。このほか各国の先住民族のコミュニティを訪れたり、日本語学校に通っている学生と触れ合うコースなどがある。

交流 コース



太陽の村「ソルヘイマル」を訪問(レイキャビク)



オーガニック料理教室(ギリシャ)

世界各国を訪問するなかで、直接見たり聞いたりして見聞を広められるツアー。カテゴリーの範囲が広く、見聞と交流を合わせたケースも多い。たとえばタヒチのパベエで実施される先住民族「マオヒ」の文化体験というコースはレイづくりやパレオの巻き方などを学び、伝統料理を味わうといった内容だ。またパナマのクリストバルでは先住民族「クナ族」と触れ合う。その歴史を聞き、民族布「モラ」づくりのワークショップに参加し、コミュニティを散策するといった貴重な体験ができる。ピースボートのネットワークと信頼があるから訪問できる場所が少なくない。

見聞 コース



アウシュヴィッツ強制収容所(オーバーランドツアー)



カンボジア地雷除去(オーバーランドツアー)

社会問題や過去の歴史に目を向けて、現地の専門家の案内で学びを深めるコース。寄港前に専門家を船上に招いて事前勉強を行うこともある。ヨーロッパではポーランドに残る負の世界遺産アウシュヴィッツ強制収容所を訪れる。ここでは唯一の日本人ガイド中谷剛さんと情報交換しながらプログラムが組まれている。他国の学生や訪問者と意見交換の機会があることも。このほか世界情勢のなかで発生する諸問題について、タイムリーなコースが設定されることもあり、世界の出来事について自分の目で見て聞くことで、より理解を深めることができる。

検証 コース



ピースボートクルーズだから体験できる 交流プログラムへ

Exchange program

ピースボートクルーズの寄港地では複数の交流プログラムが用意されている。内容はさまざまで、大きく「交流」「見聞」「検証」という3つに分けられる。ひとつの目的だけではなく「観光」と「見聞」が、あるいは「交流」と「検証」がミックスされたものも多く、なによりも各国のNGO、諸団体、専門家とのネットワークを活かした、ピースボートだから体験できるプログラムが特徴だ。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ピースボートは、国連の特別協議資格を持つNGOとして、国連が採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成を目指すプロジェクトに取り組んでいます。ジャバングレイスはこれらの活動をサポートし、寄港地でのオプションツアーにおいても、SDGsへの取り組みをおこなっています。



交流
コース

〔バルパライソの若者たちと交流会&世界遺産の街見学〕

「日本大好き」な若者が皆さんを待っています



打村 ゆき
(寄港地部)

チリのバルパライソは古くからの港湾都市です。皆さんを案内するのは、主に日系人協会の日本語学習の講座を受けている若者たち。日系人だけでなく地元チリ人も多くいます。アニメをはじめ柔道や空手を通して日本に興味をもち、日本が大好きです。受け入れのボランティア募集も人気が高く、大勢が参加を希望してくれます。皆さんと自分

たちの住んでいる街を歩き、街の特徴でもあるカラフルな建物、壁面や階段に描かれるイラスト、街並みや港が一望できる丘などを紹介することとても楽しみにしています。バルパライソではこれまでもピースボートの交流ツアーを長く受け入れてきており、ツアー後も10年以上にわたってSNSなどで交流を続け、その後日本を訪ねた人もいます。私はチリ出身でもあるため交流ツアーを通して日本とチリの架け橋になりたいと思っています。言葉の壁を超えて友情を育みましょう。皆さんとお会いできることを現地メンバーは心待ちにしています。



地元の若者たちが日本語で話してくれるのがうれしい。



カラフルな建物が街歩きを楽しみさせてくれる。

見聞
コース

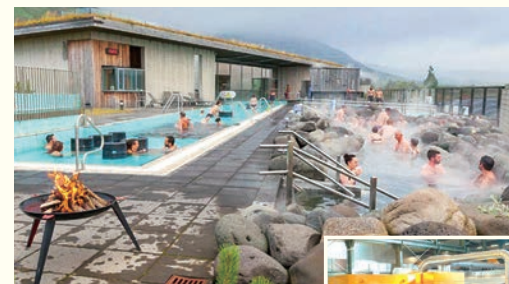
〔アイスランドから学ぶ自然&再生エネルギー活用法〕

地熱で蒸し焼きにしたライ麦パンをどうぞ



長谷川 照乃
(寄港地部)

国内電力は100%自然エネルギーという、「自然エネルギー先進国」であるアイスランドの地熱発電所や地熱温泉を訪れます。地熱を利用して地中で蒸し焼きにしている伝統のライ麦パンの試食も、このコースならではの体験です。「火と水の国」アイスランドで自然との共存を学んでみてください。



フォンタナ・スバの地熱温泉は人々に癒しを与えてくれる。

アイスランド最大のヘトリスハイジ地熱発電所。

参加者の声



泉 英伸さん・千栄子さん
(千葉県在住)

交流ツアーで
視野が広がり
考え方が変わる

これまで2回のピースボートクルーズに乗船したなかで、思い出深い交流ツアーを3つ紹介します。ひとつはモリシヤスのポートルイスで参加した「モリシヤスの子どもたちと出会う」というツアーです。親元を離れて暮らす子どもたちの貧困問題について学び、一緒に遊んだりもしました。子どもたちの元気や明るさに、逆に勇気もらいました。12月に訪れたのでサンタクロースに扮してクリスマスプレゼントを渡すと目を輝かせてくれた姿が忘れられません。パプアニューギニアラバウルでの

「バイニング族訪問」というツアーも楽しかった。村の人々と広場で綱引きやバレーボールをしました。昼食は地元の食材を使って用意してくれたのですが、ヘビの唐揚げを初めて食べました。現地の人への歓迎ぶりがとても印象に残っています。3つめはベネズエラ・ラグライラの「ベネズエラで考える地球にやさしいライフスタイル」というツアーです。政府が市民とともに植林活動を行っている取り組みについて学び、私たちも現地の小学生と一緒に植樹をしました。交流ツアーは一般の観光では味わえない、その時その場所ならではの肌と肌のふれあひがあります。自分の考え方が変わります。言葉が通じなくても、身ぶり手ぶりでそれ以上のことが伝わります。交流ツアー、おすすめです！



ベネズエラで植林活動。



ポートルイスで子どもたちと交流。



ラバウルで現地の人々と楽しいひととき。

ぜひ交流プログラムを体験ください！



クルーズにお申し込み後に配布の「オプションツアーガイドブック」には、寄港地ごとの交流ツアーもご紹介します。



ピースボートでは、寄港地にに応じて毎回交流プログラムが組まれます。初めてのコース設定の場合は現地への下見、受け入れ団体との交渉を事前に行います。各国のNGOなどネットワークを活かしたコースの企画立案も私たちの特徴です。ピースボートだから組むことのできるコースも数多くあります。ですから、ほかのツアーと異なり、現地での双方向のやりとりから生まれる感動や驚きをお届けできるのです。参加した方は「生き方が変わるくらいインパクトがあった」「自分と異なるバックグラウンドをもつ人々と交流し世界が広がり、悩みが解消した」「まったく違う価値観に触れ自分の考え方が変化した」といった感想が寄せられています。交流プログラムはピースボートの大きな魅力なので、ぜひご参加ください。



8月6日に広島で行われたオンラインイベントの様子。

広島にゆかりのあるお二人の演奏家、三原有紀さん(ピアノ)と坂直さん(バイオリン)。



「被爆を生き抜いた2つの楽器」 ヒロシマから奏でた平和の調べ

8月6日、ピースボートはおりづるプロジェクトの「環」として、オンラインイベント「奏で継ぐヒロシマ」被爆を生き抜いた2つの楽器」を開催した。広島平和記念公園レストハウスから「明子さんのピアノ」と「パルチコフさんのバイオリン」のお話と共演を配信。全国の子どもたちをはじめ多くの視聴者に平和の調べを届けた。

今回登場した「明子さんのピアノ」は、広島で勤労奉仕の作業中に被爆し19歳という若さで亡くなった河本明子さんが愛用していたものである。多くのガラス片で傷ついたピアノはその後、ていねいに修復され2005年の被爆60周年のコンサートでも演奏されている。「パルチコフさんのバイオリン」とは、広島女学院の音楽教師であったロシア出身のセルゲイ・パルチコフさんが所有していたもので、被爆した後にアメリカに渡ったが、後に娘のカレンさんによって広島女学院資料館へ寄贈された。いずれも「被爆遺品」としてとても貴重な存在である。

この2つの楽器とピースボートの出会いは2018年。スタッフの松村真澄さんに経緯を聞いた。

「ピースボートは2008年から広島・長崎の被爆者の方々と船旅を

通して、世界各地で核廃絶のメッセージを世界に届けています。参加された被爆者の方は約180人になりますが高齢化にともない、声を届けにくくなっています。そこで被爆して遺されたもの、つまり「被爆遺品」を通して原爆の恐ろしさを伝えようと考え、ご縁をいただき出会ったのが明子さんのピアノだったのです」。

話はスムーズに進み、明子さんのピアノを維持している「HOPEプロジェクト」の協力を得て、2019



音楽家の吉俣良さんによる船上コンサート。



100年を経てウラジオストクに戻ったバイオリン。



ピアノと共演する室蘭の合唱団。

年には「平和と音楽の船旅」明子さんの被爆ピアノとともに」を実施。パルチコフさんのバイオリンとともに船に乗せて寄港地で9回、洋上で4回のコンサートを行い2000人以上の方にその音色を届けた。松村さんはそこで聴衆の皆さんへ訴える力の強さを感じたという。「明子さん、パルチコフさんともに、広島で音楽を愛し奏でた楽器が今に残っている、そのストーリーが皆さんの心に響くのだと思います」。

この活動を継続してこうと計画していた矢先にコロナ禍になり、オンラインイベントが主流になっていくなかで、今回の企画は必然的に生まれた。特に、子どもたちに多く届けたいと願い、イベントを視聴しての「感想文コンクール」も同時開催となった。

当日、広島市立牛田中学校PC放送部の生徒が制作した、2つの楽器を紹介する映像が流され、ピースボート川崎哲共同代表とHOPEプロジェクト二口とみ多さん、廣谷明人さんとの対話もライブ配信された。そのなかで明子さんとパルチコフさんには、実は接点があったことが明かされ視聴者を驚かせた。小学4年生当時、明子さんが「女学校のバイオリンの先生にオーケストラを教わりに行っていた」事実がわかり、練習前後に撮ったらしい集合写真のなかに二人の姿が収まっていたのだ。廣谷さん曰く「2つの楽器の共演だけではなく、2人の再会でもあると思います」。

コンサートでは三原有紀さん(ピアノ)、坂直さん(バイオリン)によって「愛の挨拶／エルガー」「浜辺のうた／成田為三」など、6曲が奏でられ、その音色は静かに広島記念公



HOPEプロジェクトの二口とみ多さんと廣谷明人さん。

園に響いた。視聴者からも平和への願い、核廃絶への想いなど多くの反響が寄せられ、イベントは幕を閉じた。松村さんは「コロナ禍においてオンラインでコンサートを開催でき、小学生をはじめとする若い世代に視聴してもらえたのはよかったです。戦争を自分ごととして感じてもらう、平和の担い手になっていつて欲しいです。オンラインイベントは、アフターコロナに皆さんにお会いするための準備であると考えていて、楽器をまた船に乗せて、洋上や世界各地でコンサートを開きメッセージを伝えていきたいですね」と語った。

9月23日 「感想文コンクール」 オンライン授賞式開催

オンラインイベントの後日、感想文コンクール参加者の皆さんのなかから、入賞作品が決定。大賞は兵庫県の桂葉奈さん(10歳)で「2つの楽器が生きているようにやさしい音で、戦争のおそろしさを伝え、二度と戦争をしてはいけない」といった想いをつづった。桂さんには「広島への旅」が贈呈された。



大賞受賞作品
「奇跡のピアノとバイオリン」
大賞作は右記QRコードよりご覧いただけます。



ピースボートが 国際平和賞受賞

ピースボートは、このたび世界的な平和団体「ワールド・ビヨンド・ウォー（戦争を超えた世界）」より第二回「戦争廃絶への団体特別功賞」を授与された。ピースボートクルーズによる平和活動をはじめ国内外における災害支援活動、ノーベル平和賞を受賞した核兵器廃絶キャンペーンへの貢献などが評価されて今回の受賞に至った。



「戦争廃絶への団体特別功賞2021」受賞のトロフィー。

「ワールド・ビヨンド・ウォー」より 平和教育と平和構築活動を高く評価される

ワールド・ビヨンド・ウォーは、戦争と戦争の仕組みそのものを世界からなくすために2014年から活動している世界的な平和団体である。デビッド・スワマンソン氏が事務局長を務め、諮問評議会にはノーベル平和賞受賞者のマイレッド・マダワ・イア氏、平和学の世界的権威ヨハン・ガルトウング氏、非暴力平和隊の共同設立者であるデビッド・ハートソン氏が名を連ねている。

「戦争廃絶の功労賞」は戦争廃絶を目指して活動している人々を表彰し、支援するために今年から設けられた。戦争廃絶を目的に戦争の火種や戦備を減らし、戦争の文化を縮小させたことに成功した教育者や活動家に贈られる。受賞者は9月13日に発表された。

今回、ピースボートへの授与理由として、世界的な平和文化の構築に長年携わってきたことをはじめ、非暴力での紛争解決や武装解除について世界各地で取り組んできたことなどがあげられ、その活動が高く評価された。またワールド・ビヨンド・ウォーとして第二回の賞をピースボートに贈ることを光栄に思うとメッセージが寄せられている。



ピースボート地雷廃絶キャンペーン活動。



おりづるプロジェクトで核廃絶を訴える。



ピースボートが国際運営団体を務めるicanがノーベル平和賞受賞。



災害支援を積極的に行う。

オンライン授賞式で吉岡共同代表が 世界の活動家、団体へ連帯を呼びかける

9月13日の発表からおおよそ1ヵ月後の10月6日、授賞式がオンラインにて実施された。世界中から多くの参加者をつないだオンラインイベントとなった。3部門の受賞者にはピースボートのほか、「デビッド・ハートソン戦争廃絶への個人特別功賞2021」には国際NGO非暴力平和隊の共同創設者メル・ダンカン氏、「戦争廃絶への2021年功労賞」にはモンテネグロのシニヤエヴィナ山地へのNATO軍事演習地の設置に反対する市民活動が輝いた。

カナダ人フルート奏者のロン・コープ氏の演奏の後に、各受賞者のプロフィールとスピーチが配信され、ピースボート共同代表吉岡達也は次のようにメッセージを送った。

家が連帯していくことが必要だと思っています。真の平和と持続可能な世界を実現するために国境やテーマを超えて共に活動すべきです。皆さんとつながって、私たちも核兵器、戦争、軍隊の廃絶に向けて次のステップを考えていきたいと思います」。

「今回の受賞を大変光栄に思います。これからさらに活動が続けていく励みになります。私たちは1983年にピースボートを設立しましたが、今日まで活動を続けることができているのは世界中の友人、仲間のおかげです。ピースボートは活動ツールのひとつである船旅を通して、紛争地や難民キャンプ

なども訪れ、世界で何が起きているか、直接目撃し体験します。戦争がどういうものか知ることが出来ます。戦争は社会を、人々の未来を破壊します。世界各国の政府が戦争、軍隊に投入している莫大なお金は、コロナによるパンデミックや気候変動などの解決、そして平和のために使われるべきです。そのために世界のさまざまな問題に取り組んでいる活動



オンライン授賞式でスピーチする吉岡共同代表。



フルート演奏から始まり関係者の賛辞を受ける。



Online Study Sessions

ピースボートが定期的に行う世界のいまを伝える
オンラインイベントはこちらから▶▶▶



船上百景 [水彩画教室]



水彩画教室は社交ダンスと並んで人気の高い講座。船内の売店で絵具やスケッチブックを買い揃えることができる。

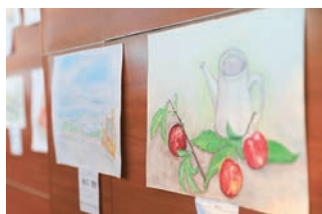
寄港地で「絵はがき」を出すのが楽しくなる

洋上カルチャースクールで人気のある講座のひとつが「水彩画教室」だ。船に乗ってから始めたという方も多数いるが、講師の先生がデッサンから彩色のポイントまで丁寧に指導してくれるから、安心して取り組める。デッキの上で筆をとるのもいいし、旅先で街歩きをした後に、心に留まった風景や名所の前でスケッチするのも素敵なひとときになる。何よりも細部までしっかりと再現していくことで「旅の印象が強く残る」という。スケッチブックには、日を追って作品がたまっていき、旅の終わりには写真とはひと味違う素晴らしい思い出が完成しているだろう。

船内では作品展も開催され、多くの方に鑑賞してもらえらるのも嬉しいもの。また「絵手紙」も人気で、寄港地でハガキを購入しそこに自身で絵を描き日本の家族や友人へ送る、というお洒落な楽しみも増える。



自分らしい作風がつけられていくのも楽しい。



船内では作品展も開かれる。



「アラスカのサンタクロース」と呼ばれる一人の日本人がいました。その名は安田恭輔。明治元年に生まれ、15歳のときに両親が他界。19歳で単身アメリカへ渡り、船乗りなどを経てアラスカ最北にあるイヌイトの村に辿り着きます。その後、村の娘と結婚するも、麻疹（はしか）の流行により多くの村人とともに自分の幼い娘までが命を落としました。同時に村は不漁が続く、そんな危機を乗り越えるため、遠く離れた内陸部に「から新しい村をつくり村人を救います。しかし戦時中は日系人捕虜として収容所に送られ、最後は日本に帰国することなくアラスカの地にて90歳でその生涯を閉じました。

それから約半世紀後の東日本大震災直後。私はピースボートの災害支援活動で石巻市に入りました。市内にある湊小学校でも活動しましたが、その小学校近くで瓦礫の中からひとつの記念碑が発見されます。そこに書かれていた名前は「フランク安田」。なんと彼は石巻出身だったのです。安田の父親が初代校長を務めた湊小学校と彼がつくった村の子どもたちとの交流は今も続いているそうです。当時のほしくは現代のコロナと同じく、ウイルスによつて引き起こされる感染症です。医療施設もない極寒の地でも、彼は決して諦めることなく家族や数千人の村人の命を救いました。船でアラスカを訪れる際は、ぜひ彼の人生を描いた小説「アラスカ物語」を読みながら航行してみてください。時を越えて、海の静寂さが心に染み入ると思います。（N・I）